

ADempiere (3.5)

インストールマニュアル

ADempiere Community



ADempiere

Contents

改定履歴	3
1 はじめに	4
2 動作環境	4
3 事前準備	5
3.1 Java JDK のセットアップ	5
3.1.1 Java JDK のダウンロード	5
3.1.2 Java JDK のインストール	5
3.1.1 Java JDK のパス設定	5
3.2 データベースのセットアップ	6
4 ADempiere サーバのセットアップ	7
4.1 ADempiere のダウンロード	7
4.2 ADempiere サーバのインストール	7
4.3 データのインポート	14
4.4 ADempiere サーバの起動	16
5 ADempiere クライアントのセットアップ	17
5.1 ADempiere クライアントのインストール	17
5.2 ADempiere クライアントからのログイン	17
5.3 Web UI からのログイン	18

ADempiere

改定履歴

Version (改定日)	改定箇所	改定者	改定内容	備考
Ver0.01 (2011/04/28)	-	syatsuzuka	Kubotti の資料をもとに初版 作成	

サンプル

ADempiere

1 はじめに

本マニュアルは、ADempiere3.5 のインストール手順を記したものです。

2 動作環境

ADempiere ERP は Windows と Linux で動作させることができます。データベースシステムは、Oracle または、PostgreSQL が使用可能です。

本マニュアルでは Windows XP Professional と Oracle XE でのインストール方法を解説します。

インストールに必要な環境を以下に記します。

OS	Windows XP Professional
CPU	2GHz 以上
メモリ	1G バイト以上(2G バイト以上を推奨)

ADempiere

3 事前準備

3.1 Java JDK のセットアップ

3.1.1 Java JDK のダウンロード

Adempiere をインストールするには Java の実行環境(JRE)だけでなくJava の開発環境 (JDK)が必要です。

インストールされていない場合は、下記 URL からダウンロードしてください。

<http://java.sun.com/javase/ja/6/download.html>

2009年12月26日現在、ダウンロードページに

- ・ JDK 6 Update 17 with Java EE
- ・ JDK 6 Update 17 with JavaFX SDK
- ・ JDK 6 Update 17 with NetBeans 6.8
- ・ JDK 6 Update 17
- ・ JRE 6 Update 17

などのダウンロードリンクがありますが、NetBeans や Java EE は不要なので、JDK 6 Update 17をダウンロードしてください。

Adempiere のインストールには、Java の実行環境(JRE)ではなくJDK が必要です。

3.1.2 Java JDK のインストール

JDK のファイルをダウンロードしたら、実行ファイルをクリックしてください。インストーラーが起動するので指示に従ってインストールしてください。

3.1.1 Java JDK のパス設定

インストールが完了したら、JDK のパス通します。

コマンドプロンプトに"jarsigner"と入力してください。

(コマンドプロンプトは、デスクトップ画面左下にあるウィンドウズのスタートメニューから、「すべてのプログラム」>「アクセサリ」>「コマンドプロンプト」で実行します)

"jarsigner"と入力したときに、使い方のメッセージが表示された場合は、すでにJDK のパスが

ADempiere

通っています。

「'jarsigner' は、内部コマンドまたは外部コマンド、操作可能なプログラムまたはバッチ ファイルとして認識されていません。」

と表示された場合は、JDK のパスが通っていないので、パスの設定をします。

「マイコンピュータ」のアイコンを右クリックして「プロパティ」を選ぶと、「システムのプロパティ」が表示されます。

「詳細設定」タブをクリックして、ウィンドウの下のほうにある「環境変数」ボタンをクリックしてください。

「システム環境変数」の「Path」を選択して、編集ボタンで変数値に JDK の bin ディレクトリをパスに追加してください。

例:

```
;C:\Program Files\Java\jdk1.6.0_17\bin
```

※セミコロン(;)は区切り文字です。

3.2 データベースのセットアップ

データベースのセットアップ手順については、「ADempiere3.5_インストールマニュアル補足」をご参照ください。

ADempiere

4 ADempiere サーバのセットアップ

4.1 ADempiere のダウンロード

ADempiere のプログラム本体は、以下から入手することが可能です。

<http://sourceforge.net/projects/adempiere/>

4.2 ADempiere サーバのインストール

ADempiere サーバのインストール手順を以下に記します。

手順 1) ダウンロードファイルの解凍

ADempiere の zip ファイルを解凍します。

解凍して出来たフォルダを任意の場所に移動させてください。

このマニュアルでは C ドライブの直下 (C:\Adempiere) に移動させたという前提で説明します。別の場所に置いた場合はファイルパスを読み替えてください。

手順 2) インストーラの実行

解凍フォルダにある、以下のバッチスクリプトを実行してください。

ADempiere の設定プログラムが起動されます。

```
C:\Adempiere\RUN_setup.bat
```

手順 3) ADempiere サーバ設定

手順 2 で起動された ADempiere サーバ設定画面において、下記を設定ください。

ADempiere

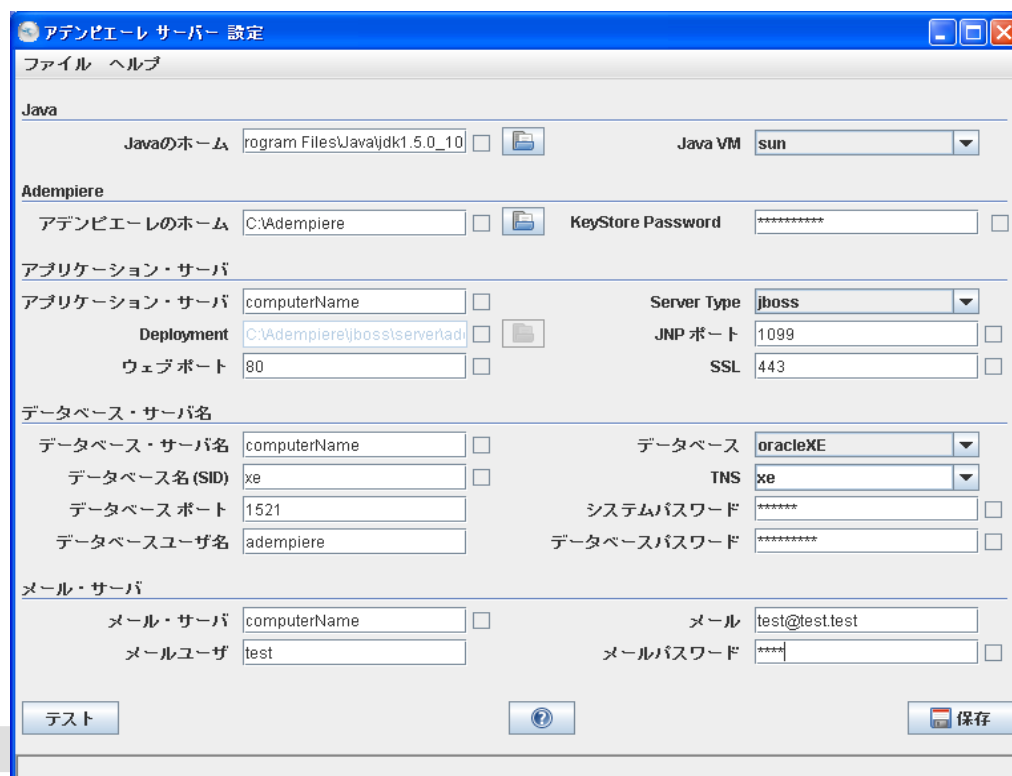


図 4-1 ADempiere サーバー設定画面

Java のホーム

インストールした JDK のディレクトリを指定

Java VM

“sun”を選択

アデンピエーレのホーム

ADempiere の本体を置いたディレクトリを指定

(本マニュアルでは C:\Adempiere に置いています)

KeyStore Password

任意のパスワードを設定して忘れないように、テキストファイルなどに保存したりメモをしたりして下さい。

ADempiere

アプリケーション・サーバー

インストールする PC のホスト名を指定します。

デスクトップのマイコンピュータを右クリックして表示される、「システムのプロパティ」ウィンドウの「コンピュータ名」タブにある、「フルコンピュータ名」がホスト名です。文字の最後にあるドット(.)は付けなくても問題ありません。

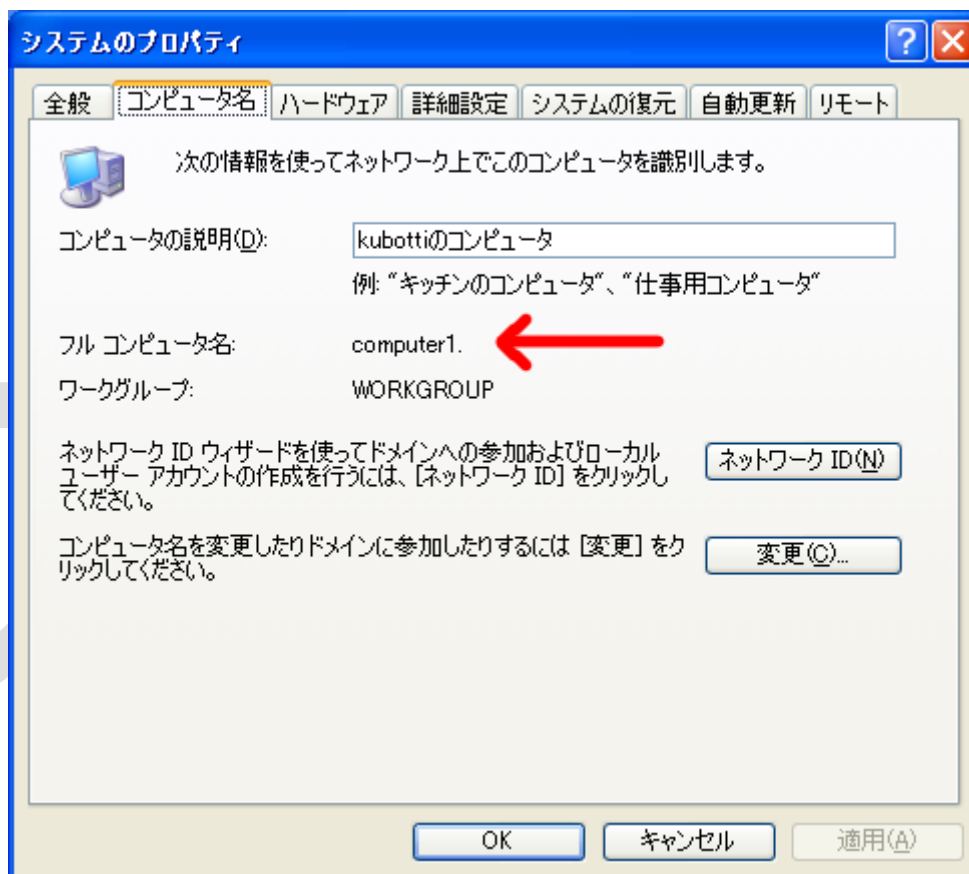


図 4-2 ホスト名の確認

Server Type

“jboss”を選択

JNP ポート、ウェブポート、SSL

デフォルトのままそれぞれ、1099、80、443 を指定

ADempiere

データベース・サーバ名

「アプリケーション・サーバ」で設定したときと同じようにホスト名を指定

<データベースにオラクル XE を使う場合>

データベース

oracleXE を選択

データベース名(SID)

“xe”と入力

TNS

xe を選択

データベースポート

oracleXE デフォルトの“1521”を設定

システムパスワード

オラクル XE をインストールしたときに設定したパスワードを入力

データベースユーザ名

“Adempiere”を入力

データベースパスワード

任意のパスワードを入力

※データベースユーザ名とデータベースパスワードは、Adempiere がデータベースに接続する時に使うユーザー名とパスワードです。

ADempiere

<データベースに PostgreSQL を使う場合>

データベース

“postgresql”を選択

データベース名(SID)

“adempiere”を入力

データベースポート

postgresql のデフォルトの”5432”を設定

システムパスワード

postgresql をインストールしたときに設定したパスワードを入力

データベースユーザ名

“adempiere”を入力

データベースパスワード

任意のパスワードを入力

※データベースユーザ名とデータベースパスワードは、Adempiere がデータベースに接続する時に使うユーザー名とパスワードです。

メールサーバ

「アプリケーション・サーバ」で設定したときと同じようにホスト名を入力

メール、メールユーザ、メールパスワード

本マニュアルでは使用しないので、test@test.test、test、test と入力


ADempiere

手順 4) ADempiere サーバ設定のテストおよび保存

手順 3 の入力が終わったら左下にある「テスト」ボタンを押してください。

「テスト」ボタンを押した後に表示される「Key Store Dialog」において、内容を変更せずに右下の OK ボタンを押してください。

テストでエラーが無ければ、右下にある「保存」ボタンがアクティブになるので「保存」ボタンを押してください。



(ON) Common Name	192.168.1.10
(OU) Organization Unit	aaa
(O) Organization	AdempiereUser
(L) Locale/Town	MyTown
(S) State	
(C) Country (2 Char)	JP

図 4-3 Key Store Dialog

手順 5) GPL ライセンスへの同意

Adempiere のライセンス(GPL)に同意するかどうかのウィンドウが表示されます。

同意出来る場合は、右下の「はい」をクリックしてください。

設定が保存されてビルドが開始されます。

ウェブポート(80)、SSL ポート(443)などが他のアプリケーションで使用されているとエラーメッセージが表示されます。

ポートを使用しているアプリケーションを終了してから、セットアップを実行し直してください。

ADempiere

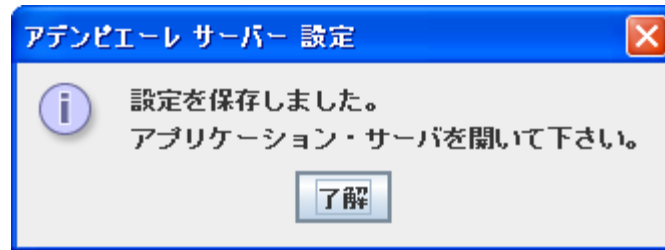


図 4-4 ADempiere サーバ設定保存結果

```
Set Windows Environment
setupDeploy:
  [echo] AppsDeployment = C:\Adempiere\jboss\server\adempiere\deploy

setup:

BUILD SUCCESSFUL
Total time: 1 minute 27 seconds

*** 2007-10-01 16:22:12.859 Adempiere Log (CLogConsole) ***
ErrorLevel = 0
=====
Setup Client Environment
=====
SET ADEMPIERE_HOME=C:\Adempiere
SET JAVA_HOME=C:\Program Files\Java\jdk1.5.0_09
Path is OK = C:\oracle\app\oracle\product\10.2.0\server\bin;C:\Program Files\Java\jdk1.5.0_09\bin;%SystemRoot%\system32;%SystemRoot%;%SystemRoot%\System32\Wbem;C:\Program Files\Java\jdk1.6.0\bin;C:\php\dlls;C:\Program Files\YTC\I-CATS\system\EXE%
Created Shortcut Adempiere.lnk
Created Shortcut Adempiere Web Site.url
Done
.
For problems, check log file in base directory
```

図 4-5 ADempiere サーバ設定保存完了後の表示

ADempiere

4.3 データのインポート

PostgreSQL または Oracle XE へのデータインポートの手順を以下に記します。

手順1) データインポートバッチの実行

インストールフォルダにある下記バッチスクリプトを実行してください。
コマンドプロンプトが開いて、ローディング処理が実行されます。

C:\Adempiere\utils\RUN_ImportAdempiere.bat



※Adempiere 342s では、バージョン8.3以降の PostgreSQL で
RUN_ImportAdempiere.bat を実行すると正しくデータがインポートされません。
Adempiere 342s で PostgreSQL 8.3以降の PostgreSQL にデータをインポートする場
合は、C:\Adempiere\utils\postgresql\ImportAdempiere.bat
の25行目を下記のように修正してください。

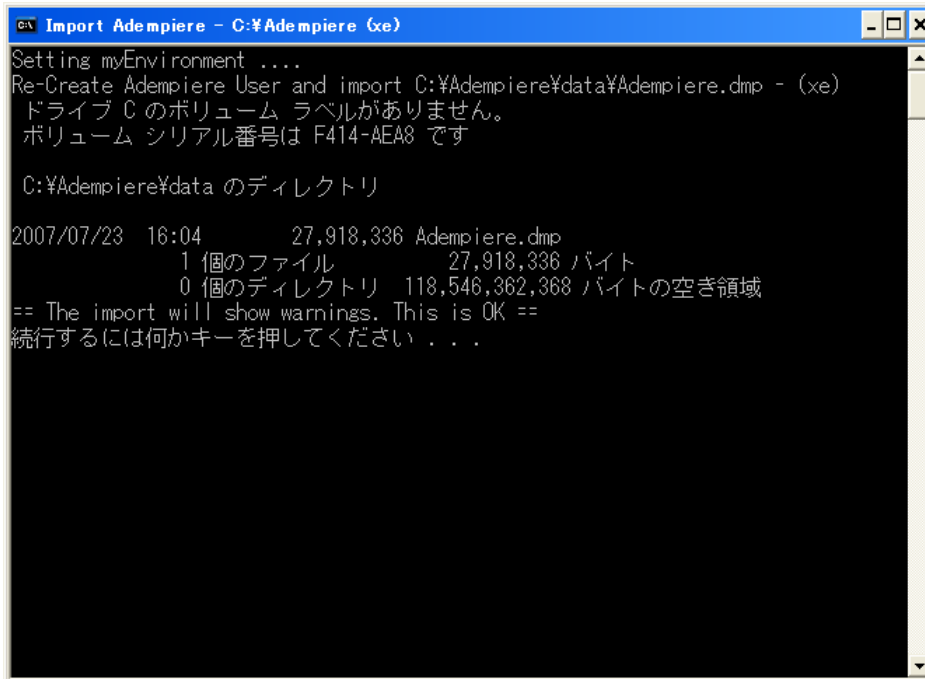
(修正前)

```
@createdb %ADEMPIERE_DB_NAME% -E UNICODE -O %2 -U %2
```

(修正後)

```
@createdb -E UNICODE -O %2 -U %2 %ADEMPIERE_DB_NAME%
```

ADempiere



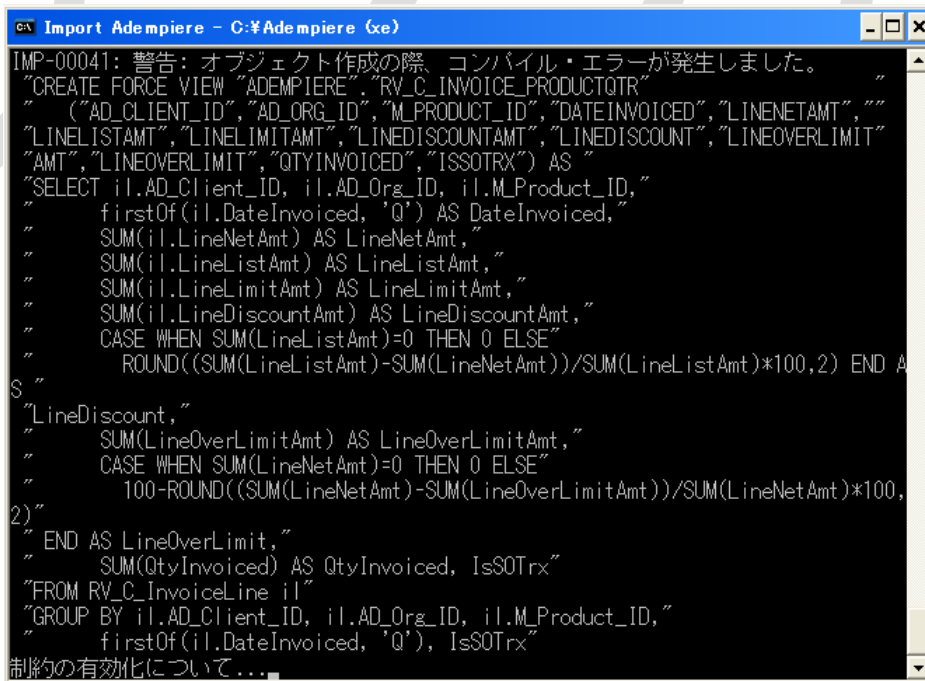
```
Import Adempiere - C:\Adempiere (xe)
Setting myEnvironment ....
Re-Create Adempiere User and import C:\Adempiere\data\Adempiere.dmp - (xe)
ドライブ C のボリューム ラベルがありません。
ボリューム シリアル番号は F414-AEA8 です

C:\Adempiere\data のディレクトリ

2007/07/23 16:04          27,918,336 Adempiere.dmp
                1 個のファイル          27,918,336 バイト
                0 個のディレクトリ 118,546,362,368 バイトの空き領域
== The import will show warnings. This is OK ==
続行するには何かキーを押してください . . .
```

図 4-6 データインポート実行時の表示

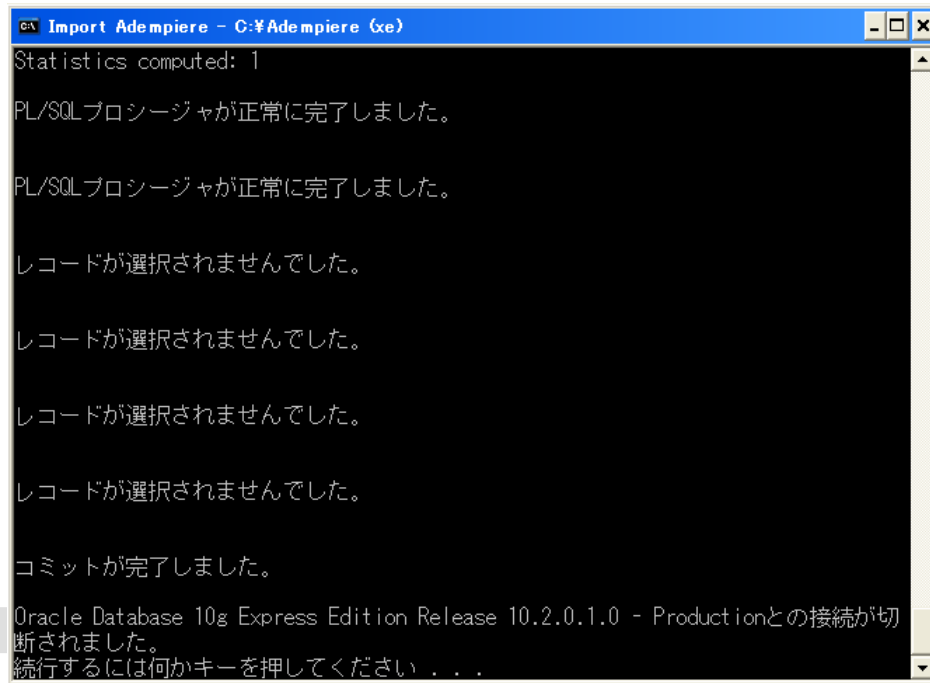
Oracle XE の場合は、処理中にエラーメッセージが表示されますが、バッチ処理の最後にエラーを解消する処理があるので途中で表示されるエラーは問題ありません。



```
Import Adempiere - C:\Adempiere (xe)
IMP-00041: 警告: オブジェクト作成の際、コンパイル・エラーが発生しました。
"CREATE FORCE VIEW "ADEMPIERE"."RV_C_INVOICE_PRODUCTQTR"
" ("AD_CLIENT_ID","AD_ORG_ID","M_PRODUCT_ID","DATEINVOICED","LINENETAMT","
" "LINELISTAMT","LINELIMITAMT","LINEDISCOUNTAMT","LINEDISCOUNT","LINEOVERLIMIT
" "AMT","LINEOVERLIMIT","QTYINVOICED","ISSOTRX") AS "
"SELECT il.AD_Client_ID, il.AD_Org_ID, il.M_Product_ID,"
" firstOf(il.DateInvoiced, 'Q') AS DateInvoiced,"
" SUM(il.LineNetAmt) AS LineNetAmt,"
" SUM(il.LineListAmt) AS LineListAmt,"
" SUM(il.LineLimitAmt) AS LineLimitAmt,"
" SUM(il.LineDiscountAmt) AS LineDiscountAmt,"
" CASE WHEN SUM(LineListAmt)=0 THEN 0 ELSE
" ROUND((SUM(LineListAmt)-SUM(LineNetAmt))/SUM(LineListAmt)*100,2) END A
S
" LineDiscount,"
" SUM(LineOverLimitAmt) AS LineOverLimitAmt,"
" CASE WHEN SUM(LineNetAmt)=0 THEN 0 ELSE
" 100-ROUND((SUM(LineNetAmt)-SUM(LineOverLimitAmt))/SUM(LineNetAmt)*100,
2)"
" END AS LineOverLimit,"
" SUM(QtyInvoiced) AS QtyInvoiced, IsSOTrx"
"FROM RV_C_InvoiceLine il"
"GROUP BY il.AD_Client_ID, il.AD_Org_ID, il.M_Product_ID,"
" firstOf(il.DateInvoiced, 'Q'), IsSOTrx"
制約の有効化について...
```

図 4-7 Oracle XE へのインポート時のエラー表示

ADempiere



```
Import Adempiere - C:\Adempiere (ce)
Statistics computed: 1
PL/SQLプロシージャが正常に完了しました。
PL/SQLプロシージャが正常に完了しました。
レコードが選択されませんでした。
レコードが選択されませんでした。
レコードが選択されませんでした。
レコードが選択されませんでした。
コミットが完了しました。
Oracle Database 10g Express Edition Release 10.2.0.1.0 - Productionとの接続が切断されました。
続行するには何かキーを押してください...
```

図 4-8 データインポート実行後の表示

↑この画面と同じメッセージが表示されたらインポートは正常に実行されています。

4.4 ADempiere サーバの起動

ADempiere サーバの起動手順を以下に記します。

手順1) サービス起動スクリプトの実行

下記バッチスクリプトを実行すると、JBoss サーバが起動します。

C:\Adempiere\utils\RUN_Server2.bat

ADempiere

5 ADempiere クライアントのセットアップ

5.1 ADempiere クライアントのインストール

C:\Adempiere\lib\AdempiereClient.zip が adempiere のクライアントプログラムです。AdempiereClient.zip を解凍してください。このマニュアルではデスクトップに解凍します。解凍して出来たフォルダに、RUN_Adempiere.bat というファイルがあるのでクリックして実行してください。

Adempiere クライアントが起動します。

最初に起動したときは GPL ライセンスに同意するかどうかのウィンドウが表示されるので、同意できる場合は、同意するを選んで先に進んでください。

これでインストール作業は終了です。

5.2 ADempiere クライアントからのログイン

Adempiere クライアントを起動するとログイン画面が表示されます。



図 5-1 ADempiere ログイン画面

ADempiere

まず、標準で作成されている、下記 ID とパスワードを入力し、右下の OK ボタン(右下のチェックマークのボタン)を押してください。

ユーザー	SuperUser
パスワード	System
言語	日本語(JP)

認証済みの画面に移動したら、インストールは適切に完了しています。
ログイン画面の下に「データベースが見つかりません」と表示された場合は、Oracle が起動していないことが考えられます。Oracle が起動しているかどうか確認してください。

5.3 Web UI からのログイン

Jboss サーバーが起動している状態で、インストール時に設定したアプリケーション・サーバ名をブラウザに入力すると、ウェブ画面が表示されます。

(例: <http://computer1/>)

表示された画面の “Adempiere ZK webUI (beta)” をクリックすると、Web 経由で Adempiere にアクセスできます。

(例: <http://computer1/webui/>)

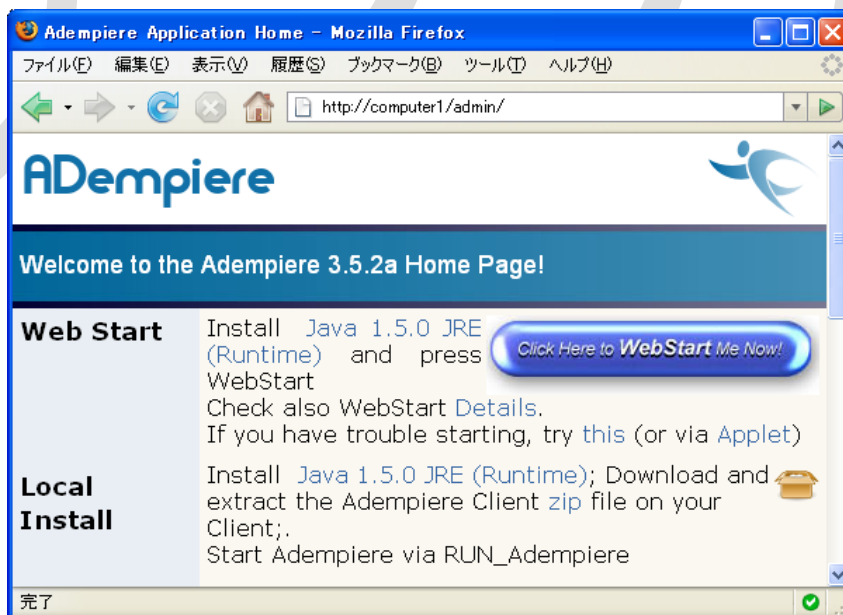


図 5-2 Web UI からのアクセス画面